

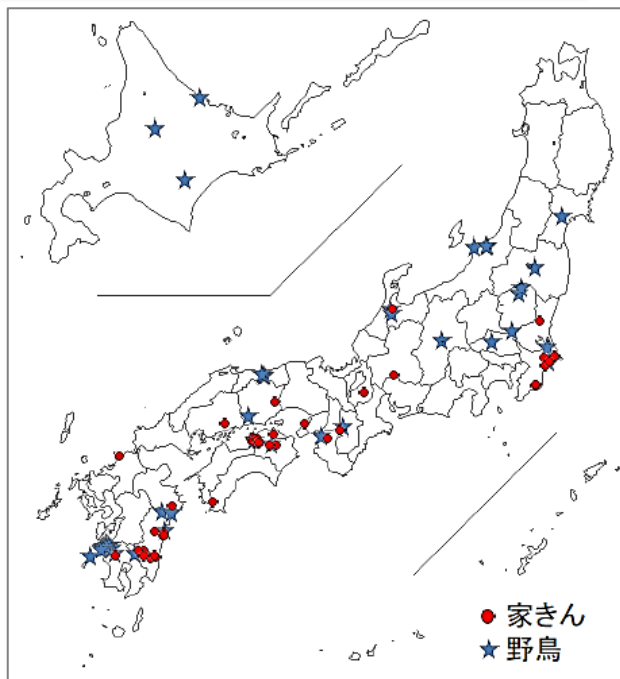
家畜衛生だより



鳥インフルエンザのシーズンはまだ終わっていません!!

今シーズンの高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生は17県(疫学関連は含まない)51事例となり、殺処分された家きんの数は約979万羽に上ります。(令和3年3月8日時点)

関東の家きん飼養農場では、12月から2月にかけて千葉県で11事例、茨城県で1事例の発生がありました。また、12月に埼玉県、2月に茨城県、栃木県、千葉県の野鳥からHPAIウイルスが検出されています。栃木県の野鳥からのウイルス検出については、現在、埼玉県の一部地域が野鳥監視重点区域に指定されていますので、お知らせします。



①栃木県栃木市 ハヤブサ

- ・2月15日 ハヤブサ1羽の死亡個体を回収。簡易検査陽性を確認。これに伴い、環境省が野鳥監視重点区域(埼玉県内では加須市・羽生市・久喜市)を指定。
- ・2月22日 国の検査により、高病原性鳥インフルエンザ(H5N8亜型)が確定。

②栃木県栃木市 ノスリ

- ・3月3日 ノスリ1羽の死亡個体を回収。簡易検査陽性を確認。これに伴い、環境省が野鳥監視重点区域(埼玉県内では加須市・羽生市)を指定。
- ・確定検査を実施中。

渡り鳥が移動する5月末頃まで、引き続き最大限の警戒をお願いいたします!



【対策のポイント】

- 手指消毒
- 清潔な衣服と靴の着用
- 使用する物品の定期的な洗浄、消毒
- 野生動物や害虫の侵入防止対策 等

下記の異常が見られる場合は、速やかに家畜保健衛生所までご連絡ください。

- ・死亡率が平時の2倍以上
- ・まとまって死亡している、元気がない、食欲がないなどいつもと異なる症状がある。
- ・産卵率の低下



全国どこでも発生する可能性があり、警戒が必要です!!

高病原性鳥インフルエンザ

今シーズン飛来している渡り鳥の数

- ✓ 環境省が行っている渡り鳥の飛来状況調査（全国52カ所）によれば、例年と同程度の飛来数
- ✓ 鹿児島県出水市で行われているツルの飛来数調査では過去最高を記録したと報道されるなど、地域や種類によっては渡り鳥の数が例年より多いと考えられます。



○出水市のツル飛来数調査

・今シーズン過去最高を記録

2020年；17,315羽

2019年；15,529羽

2018年；14,286羽

ウイルスを保有している渡り鳥の割合

✓ 専門家の意見（複数）

- ①ウイルス保有の渡り鳥が多い可能性
- ②国内の野鳥間で広がった可能性が考えられるが、環境中のウイルス濃度は上昇している。



野外に多量のウイルスがあちこちに

- 北海道から鹿児島まで全国各地の野鳥（糞を含む）で検出（13道県30事例）
- 渡り鳥だけでなく、猛きん類（食物連鎖の頂点）でも検出（6道県7事例）
オジロワシ（北海道）、ハヤブサ（北海道、岡山県）、ノスリ（香川県、鹿児島県）、オオタカ（奈良県）、フクロウ（埼玉県）
- 鳥だけでなく、環境中の水でも検出（3県18事例）
新潟県（阿賀野市剱湖の水）、鳥取県（気高町日光の水）、鹿児島県（出水市のツルのねぐらで採取された水）

